

池袋本町中央通り商店会会長で菓子店主の村上宇一さんと、副会長でコインシール部長の鈴木酒店主の鈴木良治さんをお訪ねしました。

この商店会は、戦後の新生会どおり商店会と街灯会が統合されて生れました。現在は川越街道入口の一丁目児童遊園から水川神社までの池袋本町中央通り沿いと、池袋本町の前身「本村」の名を残す本村豆腐店から川越街道に抜ける道路沿いの商店会です。この地域には、4つの町会（一丁目、中央、末広、宮元）が関わっています。会員は、協賛も含めて111世帯、店舗数は70店舗。コインシール部には、その中の物販小売業の約30店舗が加盟しています。

現在、池袋本町の各商店会は個々にシールサービスに取り組んでいます。この各商店会のサービスを、池袋本町商店会連合会で共通化しようという案が出ているそうです。これは、地元で買物をしてくれたお客さんに、スタンプを有効に活用してもらいたいという思いからです。

村上さんは、商店会連合会の「商人（あきんど）まつり」の開催目的は、まちのみなさんと顔なじみになることと言われます。ゆくゆくは、空き店舗なども活用し、子どももお年寄りも含めて住民が集い、商店街を憩いの場にしたいと夢を語ります。ひと昔前の商店街やまちは、いろいろな職種の人たちが軒を並べ、子ども達はそこで守られながら



育ち、そこは遊び場であり、学びの場になっていました。社会を震撼とさせる事件が多いなかで、子どももお年寄りも安心して暮らせるまちづくりが求められています。この夢は是非実現して欲しいと思います。今秋に開催予定の第4回「池袋本町商人まつり」も希望が持てそうです。村上さんは1955（昭和19）年、鈴木さんは1938（昭和13）年、お二人とも池袋本町生まれの池袋本町育ちです。（取材：内藤、青山）

編集子後記 8つの町会と4つの商店会の役員のみなさんをはじめ、多くの方々にまちづくりへのご意見やお考えをうかがわせていただきました。それをこのニュースの中で、それぞれに方々の意を損なうことのないように努めながら、できるだけそのままお伝えしてきました。ご協力ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

池袋本町 **ニュース** 防災まちづくり **no. 36**
Ikebukuro Honcho Bonai-Machi Zokuri News
2005年3月25日発行

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区住環境整備課
問い合わせ先：住環境整備課
TEL 03-3981-0489
編集協力：(株)防災&まちづくり計画室

終わる防災生活圏

池袋本町地区で8年間にわたって行われてきた防災生活圏促進事業が、この3月末をもって終了いたします。4月からは居住環境総合整備事業に引き継がれ、地区のまちづくりは行われます。

防災生活圏促進事業で培われたまちづくりの芽を、大きく育てるのが新しい事業となります。池袋本町地区を安全で住みやすいまちにするために、新しい10年が始まるようとしています。

今年もやります……防災まちづくり祭



すっかり池袋本町の年中行事となった感がある防災まちづくり祭。新しい事業となっても祭は残ります。これまで、事業の予算で行われてきましたが、今年度からはまちづくりの会が資金的に独立して行います。まさに手づくりの祭となります。どうぞお問い合わせの上ご参加ください。

- ①「見る」展示コーナー
・子どもポスターコンクール「私の住むまち」
- ②「体験する」訓練コーナー
・煙から逃げる（煙体験）
・けが人を助ける（救急救命訓練）……新心肺蘇生法
・火事を消す（ポンプ放水訓練・初期消火訓練）
・燃えにくい衣類とは（火災実験）
・見て知る消防（住宅用火災器具、消防車両、写真）
- ③「まわる」防災スタンプラリー
・5つのポイントを廻った方に参加賞
- ④「炊き出す」炊き出しコーナー
・災害時を想定して炊き出しを行います。
- ⑤「聴く」演奏コーナー（予定）

第9回 池袋本町防災まちづくり祭
日時：5月22日（日）
10時～13時
場所：本町防災ひろば
(天候によってぬかるむ場合は、池袋本町公園になることもあります)
主催：池袋本町防災まちづくりの会・本町防災ひろばの会
事務局：豊島区都市整備部住環境整備課

つれづれに一言
池袋本町のまちづくり組織は、防災生活圏促進事業を活用して池袋本町の防災まちづくりを進めたいという豊島区の呼びかけにこたえて、平成8年2月に「池袋本町防災まちづくりの会」が、2年後には「池袋本町防災ひろばの会」が結成されました。
目標は「逃げないですむ」まちづくりです。これは大地震が起きてても重大な被害にならないよう、みんなで助け合って災害と戦う防災の体制づくりです。そのためには、子どももお年寄りもみんなが安心して住み続けられる環境づくりが必ず必要不可欠です。
この間、この目標に向かって町会を中心にして行政と住民が一体となって取り組んできました。この事業は今年度末で終了します。三つの学校の井戸ひろばや、貯水槽の設置などができましたが、狭あい道路の未整備など充分ではありません。これからは新年度から始まる居住環境総合整備事業に引き継がれます。これからもみなさんのご協力をお願いします。
(会長 大澤登美治)

サバイバル・ワンポイント講座 その18

部屋を守る2

◆ガラスの飛散から部屋を守る

2月16日午前4時46分ごろ、茨城県南部を震源とする地震では、つくば市で震度5弱を記録し、都内でも震度4の揺れを感じました。そして26人（東京都は5人）の方がケガをされています。地震に備えて室内を安全にしておきたいものです。

今回はガラスが割れて足をケガをしたり、足の踏み場がないなんていうことにならない対策をご紹介します。

その1：部屋の中のガラスをチェック
まずは、部屋をぐるっと見回してみましょう。ガラス製品はどのくらいありますか。窓ガラス、本棚や食器棚の扉、ガラスのテーブル、額ガラス、グラスや食器…、私たちは、たくさんのガラス製品に囲まれています。

その2：ガラス飛散防止フィルムを貼る
ガラス飛散防止の一般的な対策は、ガラス飛散防止フィルムを貼ることです。ホームセンターの防災グッズコーナーなどで買求めることが出来ます。このフィルムを窓ガラスや食器棚のガラスなどに貼ってください。ガラス飛散防止フィルムを貼ることで、防犯効果も上が

りますので、ぜひやってみてください。

その3：ガラス製品の落下防止
吊り下げ式の照明器具は、揺れることで落下したり、天井とぶつかって破損することがあります。右図のようにチェーンなどで固定しておきましょう。
また、右図のような粘着性のあるシートがあります。これをガラスの置物などの下に敷くことで落下転倒しにくくなります。

その4：今日からやれること
これまでご紹介したようなことがすぐには出来ないという方は、せめて次のことはやってくださいね。
ひとつは、地震で床が足の踏み場のない状態になったのために、室内履きを用意しておきましょう。
もうひとつは、カーテンです。カーテンを引いておくことで、窓ガラスの飛散が少なくなります。夜寝るときはもちろんですが、昼間でも…、暗いなどという方は、レースのカーテンでも効果はあります。ぜひ今日から出来ることを実践してみてください。
(いのうえこういち/防災ネットワークプラン)